



# 本丸だより

令和3年度 号外 令和4年2月22日(火)

新発田市立本丸中学校

新発田市緑町2-7-22

TEL 0254-22-2525

FAX 0254-22-0342

<https://honmaru.shibata.ed.jp/>



## 令和3年度新発田市立本丸中学校【学校評価(12月)】結果一覧

御多用の中、学校評価アンケートに御協力いただき、誠にありがとうございました。また、貴重な御意見もありがとうございました。以下に、今回の評価と改善の概要をまとめましたので、御覧ください。

### Q&A

#### <学力向上(知)>

- 復習できる時間などを時間外などで作っていただけるとありがたい。家庭学習の促し方に限界を感じつつある。  
⇒ 新学習指導要領の趣旨に沿って、思考力・判断力・表現力等を育成する観点でも授業改善を進めています。また、基礎・基本の定着に向け、  
授業、補充学習、家庭学習の課題等について再確認します。
- テスト計画表と範囲表について再度検討をお願いしたい。一度配布したものに変更がないようにしてほしい。  
⇒ テスト計画表と範囲表は、混乱することもあるようですので、来年度に向けて検討します。

#### <豊かな心の育成(徳)>

- 自分の子だけでなく、家庭、学校、地域で見守る環境を整えてあげたいと感じている。
- 校則が守られていないと感じることがあり、厳しく注意しているようで緩くなっていると感じるそうです。  
⇒ 「見過ごさない」「見て見ぬふりをしない」「見捨てない」の姿勢を全職員でもち、共通理解のもと指導を継続していきます。また、表面的な指導で終わることなく、生徒の心情や背景にあるものをくみ取りながら、内面に届く指導になるように心がけます。また、日常から生徒と関わりを多くもち、生徒の悩みや声を傾聴して、指導に活かしていきたいと思います。

#### <健康・体力づくり(体)>

- 夏、半袖で活動をしたとき、個々の事情を理解してもらえないでいた。いつも体調が良いとは限らないことを念頭に指導して欲しい。  
⇒ 自分の健康管理ができるように、体調を考えながら長袖の着用を自己申告で許可していました。体調不良の時などは事情を担当の教師へ話してください。健康面で何か気になることがありましたらお知らせください。

#### <その他>

- 給食のレシピがほしい  
⇒ 新発田市のホームページに「学校給食レシピを紹介します」のページがあります。参考にしてください。
- 着替えを男女別の教室にしてほしいです。  
⇒ 部屋数の不足や時間の関係で、男女別で着替える部屋を用意することは難しいです。生徒は半袖体操着を制服の中に着用していて、そのまま制服を脱ぐようにしています。
- 学校のiPadを深夜に使用できないようにしてほしい。家への持ち帰りについて、他の学校では日数を限定している学校もあると聞く。「自学以外に使用しないように」と言われても実際は難しい。  
⇒ 利用の目的と現状について再度情報共有を行い、どのようにしたら効果的に使用できるかを含めて検討していきます。
- 学校の行事や懇談会などは早めに教えてほしい。  
⇒ 各種たより、メール配信で行事や懇談会等の予定を早めに伝えていきます。またホームページにも掲載していきます。
- 外部講師等の機会を増やしてほしい。  
⇒ 総合学習で外部の方からお世話になる機会があります。また、地域教育コーディネーターの協力により、学校行事において地域の方々からの支援を定期的にいただいています。今後も継続します。
- 持病のことで相談をしたくても、他の生徒に知られたくないため、保健室に行きづらいとのこと。  
⇒ 保健室利用は必要な時のみの利用としています(1日1時間)。体調面等での相談については随時行っています。時間を確保して対応していますので安心してください。保健室に行きづらい場合は、まず近くの話やすい職員に相談するよう

伝えてください。

# 「知・徳・体」の評価

《目 標》

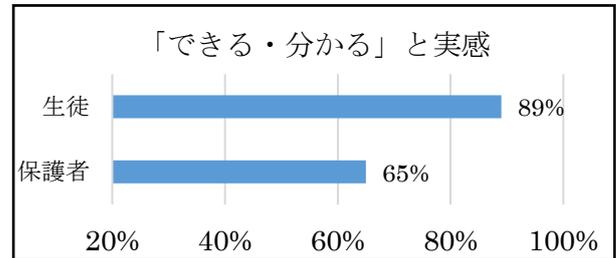
「できる・分かる」と実感して学習している生徒を85%以上にする	評価 A
---------------------------------	------

(「とても」or「まあまあ」の肯定評価が A:85%以上 B:85%未満~65% C:65%未満)

= アンケート質問 =

○ 日頃の授業で「できた」「分かった」と実感していますか。

- 1 とても実感している
- 2 まあまあ実感している
- 3 あまり実感していない
- 4 全く実感していない



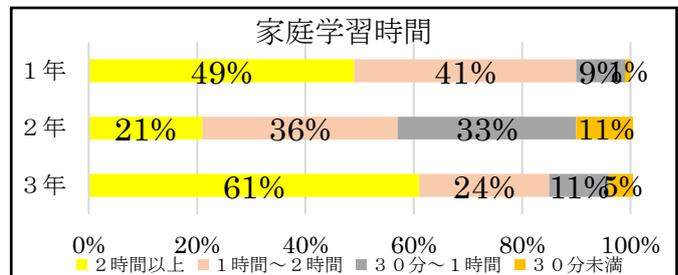
《目 標》

平日、1時間以上家庭学習をする生徒を70%以上にする	評価 A
----------------------------	------

(A:70%以上 B:70%未満~60% C:60%未満)

= アンケート質問 =

○ 平日(月~金)、1日当たりどれくらいの時間、家庭学習をしますか。(学習塾や家庭教師含む)

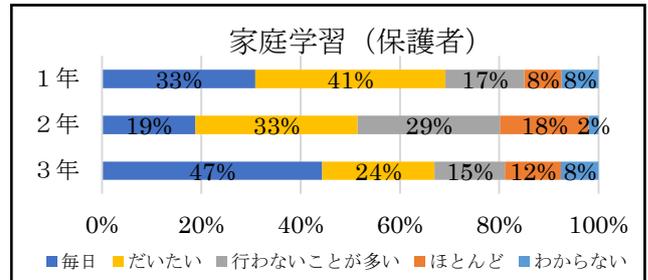
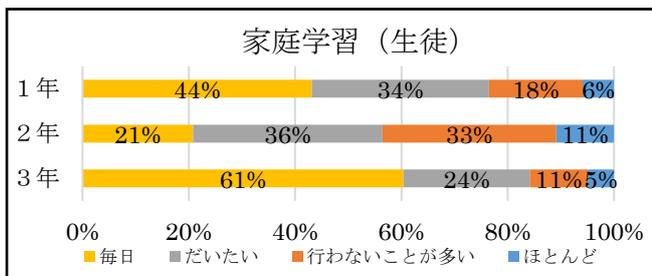


## ◆参考資料◆

= アンケート質問 =

○ 平日(月~金)、家で予習や復習など家庭学習(自主学習ノートなど)を行っていますか。

- 1 毎日行っている
- 2 だいたい行っている
- 3 行わないことが多い
- 4 ほとんど行っていない



《目 標》

Web配信問題において各教科、60%以上のクラスが県平均を超える	評価 C
----------------------------------	------

(Web配信テストで県平均を超えた割合が A:70%以上 B:70%未満~50%以上 C:50%未満)

	6月			9月		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
国	1/5	1/5	2/5	2/5	2/5	3/5
数	3/5	3/5	2/5	4/5	2/5	2/5
英	4/5	2/5	3/5	3/5	3/5	3/5

※ 90回実施し、44クラスで県平均越え→48%により「C」 (表の数右:クラス数 左:平均越えクラス)

「できる・分かる」を実感できていると評価した割合が89%(1学期も同様)で目標数値を達成しました。感染対策を講じ、制限がある中で授業を展開しています。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、学び合い活動を充実するとともに、タブレット端末を含めたICT機器の活用により、個別最適な学びを充実できるよう今後も進めてまいります。

## 家庭学習について

60分プラス学年×10分を毎日の家庭学習時間に設定しています。1年生は70分、2年生は80分、3年生は90分をクリアできるよう、各学年で自主学習ノートを毎日提出させたり、市販の教材(新研究等)を利用させたりして、学習する環境づくりをしています。平日1時間以上家庭学習をする生徒の割合は、学年別に見ると、3年生は入試に向けて意識が高まり、85%となっています。また1年生は各教科の宿題や小テストの学習等を自主学習ノートに書くなどにより、90%となっています。しかし、2年生の学習時間が少なく、全体の68%が1時間以上家庭学習をし、32%の生徒がほとんど家庭学習習慣が身につけていないことがわかりました。3年生から部活動の引継ぎにより、活動する時間が長くなること、スポーツなどの社会体育の活動を夜遅くまでやっていることが原因で学習時間が減少しています。1年生は、これまで通りに自主学習ノートを継続して提出、点検しながら支援していきます。2年生は、市販の教材を購入し、翌年の高校入試に備えていけるように、モチベーションを保てるように努力します。

## Web 配信テストについて

昨年は実施していませんでした。このテストの目的は基礎・基本の定着等を図るために、どの場面が得意・不得意なのかを生徒だけでなく、教職員も把握して授業改善に当たることです。国語・数学・英語の3教科での実施は変更がなく、今年度は年3回の実施になり、解答時間が20分から40分、問題の内容も発展的なものになりました。

第1・2回分の集計での数値ですが、結果的には県の平均値を60%以上超えることはできませんでした。2・3年生の教科では国語、数学の数値が低くなりました。数値が低い場合には誤答数より無答数が多い傾向にあります。受検の態度をしっかり指導し、テストは大切であることを再度指導する必要があるものと認識し、定期テストだけでなく、NRT等の諸テストの意義、受検の意味や態度をしっかり指導することを継続します。また、学力実態を客観的な数値として把握するためにWeb配信問題でなく、基礎学力テスト(仮称)を新設することを検討します。

## 授業規律・学習の意欲向上に向けて

授業規律や学習意欲の向上のためには様々な角度からのアプローチが必要だと考えています。学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力と人間性の涵養を重点目標として取り組みます。具体的には自己肯定感を高め、互いに認め合い高め合える「心」を育てます。その上で、基礎基本を身に付け、目的意識をもって学びに向かう生徒を育てます。そのために、全校体制で組織的、協働的に取り組みます。

### 《学校関係者評価委員会から》

- ・「できる・分かる」と実感している生徒に対して保護者の数値が低い。このことは保護者が「褒める」ことが足りなくなる可能性がある。生徒と保護者のコミュニケーション不足が心配である。また定期テストの結果等だけでなく、生徒たちの「できる・分かる」をもっと生徒に伝えられたらと思う。知の分野での自己肯定感にもつながると思う。
- ・部活動や生徒会の活動の中心となり、時間が割かれていると思うが、小学生の頃から家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多いのかもしれない。小学生のうちから習慣化できるように、と思う。

## 「知・徳・体」の評価

《目 標》

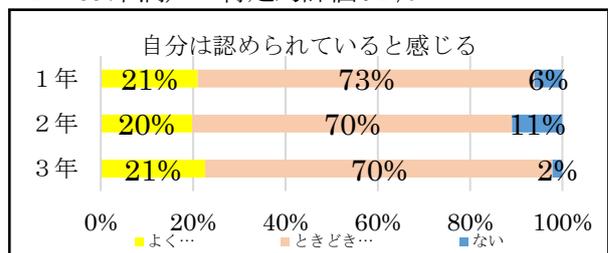
学級や学校生活の中で自分が「認められている」と感じる生徒の割合を85%以上にする

評価 A

(肯定評価が A 85%以上 B 85%未満～60%以上 C 60未満) ⇒肯定的評価91%

= アンケート質問 =

- あなたは学級や学校生活で、先生や仲間からほめられたり、認められたと感じたりしたことがありますか。
- 1 よくある
  - 2 ときどきある
  - 3 ない



《目 標》

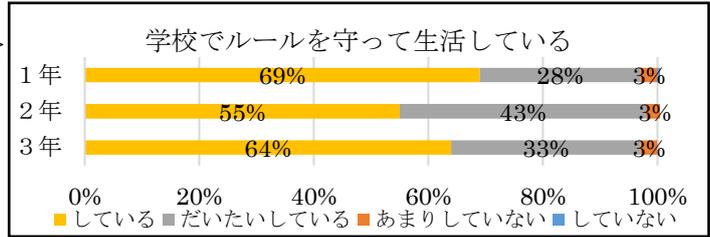
学校生活の中で「ルールやきまりを守り、協力して生活している」と答える生徒の割合を85%以上にする	評価 A
--	------

(肯定評価が A 85%以上 B 85%未満～60%以上 C 60 未満) ⇒肯定的評価 95%

= アンケート質問 =

○ あなたは、学級や学校生活で、ルールやきまりを守って協力して生活していますか。

- 1 している
- 2 だいたいしている
- 3 あまりしていない
- 4 していない



《目 標》

いじめを見過ごさない生徒を100%にする	評価 B
----------------------	------

(いじめを見たときに「注意する・止める」「知らせる」A:100% B:100%未満～90%以上 C:90%未満) ⇒「何もしない、見過ごすなどの回答」6人

= アンケート質問 =

○ いじめを受けている人がいたらどうしますか。

- 1 注意したり止めたりする
- 2 先生に知らせる
- 3 家族に知らせる
- 4 友だちに知らせる
- 5 その他

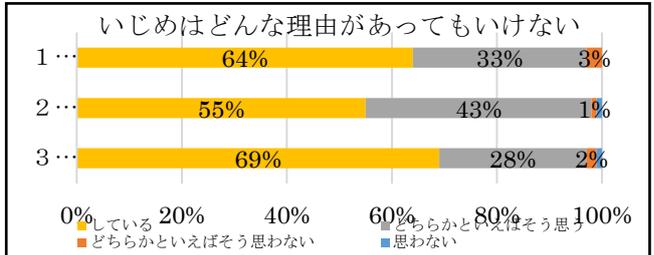
	1 止める	2 先生に知らせる	3 家族に知らせる	4 友だちに知らせる	計	5 その他
1年	71	114	20	43	248	5
2年	70	81	19	48	218	13
3年	36	99	28	79	242	4
全校	177	294	67	170	複数回答	22

◆参考資料◆

= アンケート質問 =

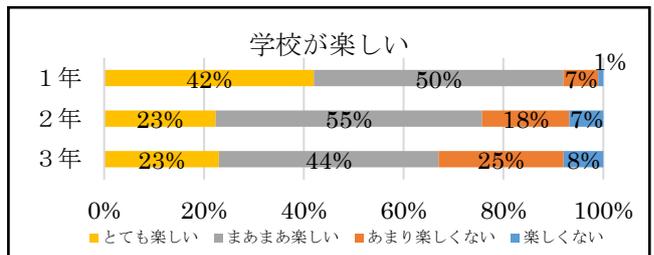
○ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。

- 1 とてもそう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 思わない



○ 学校が楽しいですか。

- 1 とても楽しい
- 2 まあまあ楽しい
- 3 あまり楽しくない
- 4 楽しくない



体育祭や合唱コンクールでの活動の成果、またそれらの行事後の異学年、学級内でのメッセージ交換の甲斐あって、学級や学校生活の中で自分が「認められている」と感じる生徒の割合が年度途中と比べて上昇しました。3年生では10%、1・2年生では2%の上昇でした。自己有用感・自己肯定感を高めるために、お互いが認め合う活動を一人一人が集団に貢献する活動を組んでいきます。

今後の取り組みとして、来年度も行事後のメッセージ交換(入学式・八里を歩く・体育祭・合唱コンクール・卒業式等)で集団作りをすすめ、自己有用感・肯定感を高めていきます。また、学年で「育てたい生徒像」を明確にして共通認識のもと、「学級活動」「道徳」の時間等、様々な活動を計画的・系統的に、根気強く丁寧な指導を継続します。

年2回、「いじめ見逃しゼロ運動」「いじめ見逃しゼロスクール集会」を行っています。専門委員会のいじめ対策委員会単独での活動で運営していました。横断的な連携のもとで活動するために、生徒会本部とタイアップして全校体制、小中連携等、より実生活にいきるものになるように検討します。また、いじめに対しては「いじめを許さない・見過ごさない」という教師の強い姿勢を今まで同様に生徒に伝え続けていきます。

生徒会本部や専門委員会の活動を活性化することも目指します。自治的な力をつけ、生徒の自己有用感や肯定感を高める活動にしていけるように、専門委員長会、ウイルスで制限されていた小中連携のあいさつ運動ができるようにします。また、今年度は生徒会本部主催の「あいさつまつり」、生徒会本部提案「日常生活あたりまえ向上話し合い活動」を行いました。自主的な活動により、達成感や成就感が味わえたものと考えます。こちらも継続して実施したいと考えます。

生徒指導については、これまで同様に「報告・連絡・相談」を確実にを行い、「チーム」で生徒指導を進めます。月1回の「スマイルアンケート」や学校生活で生徒と関わる時間を増やすなど、生徒の状況を把握し、対応できました。また、人権教育、同和教育の授業を各学年で予定した回数（3回以上）を上回って実践できました。いじめをしない 許さない 命を大切にす意識の醸成に、職員一同今後も努めてまいります。

《学校関係者評価委員会から》

- ・認めてあげること意識しているのは大変すばらしいと思う。
- ・ルールを守ることについての2年生の数値が低いことが気になる。
- ・いじめ見逃しについての取り組みは大変重要なことであり、かつ、永遠の課題とも言える。目標とする数値に達しなかったが、しっかり学校全体で取り組んでいると思う。
- ・行事後の異学年、学級内でのメッセージ交換はとても良いことだと思う。特定の人のことだけでなく、必ず一人一人を賞賛するのでとても良い。
- ・メッセージ交換の中に、「地域の声」のようなメッセージも届け、生徒たちを励ますことが出来れば良いと考えている。
- ・1年生が「学校が楽しいと感じている」数値が高いのが嬉しい。

## 「知・徳・**体**」の評価

《目 標》

体カテストで年度末に向上した生徒を80%以上にする。	評価 A
----------------------------	------

2回目の体カテスト（12月実施）で数値が向上した生徒は 90%であった。

◆参考資料◆ 体カテストの体力合計点（8種目）の対全国偏差値（全国平均50）（R3.5月実施）

	1年5月	2年5月	3年5月
男子	49.3	53.1	50.9
女子	46.2	50.4	46.2

（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m、立ち幅とび、ハンドボール投げ）

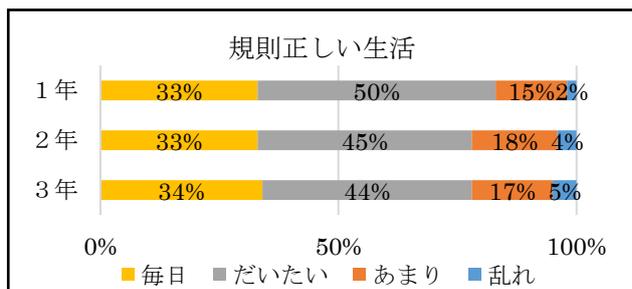
《目 標》

健康な体づくりのために、規則正しい生活を心がけている生徒の割合を80%以上にする。	評価 A
---	------

（肯定評価が A 80%以上 B 80%未満～70%以上 C 70%未満）⇒肯定的評価81%

= アンケート質問 =

- 運動、栄養、睡眠の大切さを意識して規則正しい生活を送っていますか。
- 1 ほぼ毎日意識して生活している
  - 2 だいたい意識して生活している
  - 3 あまり意識していない
  - 4 生活のリズムが乱れている

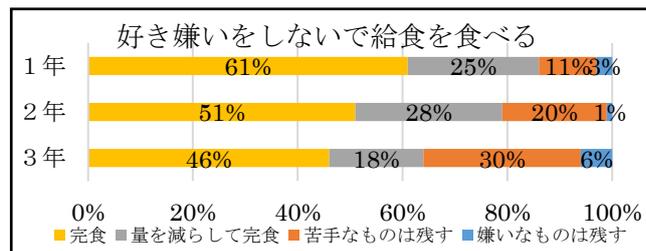


食の大切さがわかり、好き嫌いせず給食を完食できた生徒の割合を80%以上にする。	評価 A
---	------

(肯定評価が A 80%以上 B 80%未満～70%以上 C 70%未満) ⇒肯定的評価80%

= アンケート質問 =

- 食事の大切さがわかり、好き嫌いをしないで給食を完食している
  - 1 ほぼ毎回残さず完食する
  - 2 苦手なものでも量を減らすなどして完食する
  - 3 苦手なものは残すことが多い
  - 4 嫌いな給食は必ず残す



### 体力向上について

体力テストは2回実施しました。5月より、12月のテストでほとんどの生徒が数値を向上しました。しかし、5月では、2・3年男子、2年女子のみが全国平均を上回ったのみでした。感染症対策による部活動の制限や前年度の休止等の影響により、運動する機会が減り、体力低下につながった大きな要因のひとつと考えています。

県平均値と本丸中学校の平均値との比較では、男子は握力(筋力)・長座体前屈(柔軟性)・ボール投げ(巧緻性)では高い数値を記録しました。女子は長座体前屈(柔軟性)では高い数値を記録しました。男女共に敏捷性とスピードに課題が見られたので、今後の体育授業で課題解決を目指した運動を取り入れ、次年度での改善を目指します。また、少しでも運動の楽しさ、得られる充実感等が増すように、学習カードの工夫や、授業内での声かけ等、意欲的に授業に参加できるような環境づくりに努めてきました。今年度途中からタブレットが導入されたので、体育授業のどの場面で活用すると有効なのか検討します。感染症対策をしながら、身体的な成長著しい大切な時期だからこそ「基礎体力の向上」を目指した取組を継続し取り入れます。また、運動習慣の大切さや、運動に対する抵抗感が少しでも軽減するような授業づくりを行っていきます。

### 生活習慣について

テスト前のメディア時間調査を保健委員会で行いました。グループで調査することで自分の利用時間を他者と比較し意識させましたが、結果を有効に活用することができませんでした。今後は結果をどう活かすかを生徒自身が考え、動けるような取組にしていきたいと考えます。メディアコントロールには御家庭での協力が必要となるため、メディアの正しい理解ができるように、情報提供していきます。

### 食の大切さについて

専門委員会の給食委員会がポスターや昼の放送で残量を減らす啓発を行いました。また、残量調査の結果を前期・後期での比較と昨年と今年の比較を、わかりやすく掲示物にして各学年の廊下に掲示し、視覚に訴えました。食の大切さの理解については、2・3年生を対象に栄養士による食育指導を実施し、食に対する意識を高める取組をする予定です。残量が増える理由である「食べる時間が足りない」に対して給食準備を早くすることで食事の時間を確保する工夫をします。

「運動」「休養」「食事」はつながっていることを意識して、生活を見直していく機会を作っていきます。

### 《学校関係者評価委員会から》

- ・すべての評価がAとなり、学校や家庭での努力の成果といえる。
- ・食事の大切さとは、栄養面だけでなく、家族団らんの時間だと考えている。「孤食」になっていないか、1日1回でも家族で食卓を囲んでいるか、気になる。思春期の子どもたちと向き合う上でも、家族とのコミュニケーションの時間がどれだけあるのか、知りたい。

### 《学校関係者評価委員会から その他の意見》

- ・取り組み状況を見る限り、関係者の努力で、平時の状況を維持していることは称賛すべきことと思います。
- ・大人も子どもも、不安、焦り、閉塞感を感じて毎日を過ごしています。そんな中での教育現場は計り知れない苦労も多いかと存じます。
- ・オミクロン株の感染拡大で、これまでとは違った状況になりました。今後、重症化の恐れのないウイルスに変異し、一日も早い終息を迎えることを祈念申し上げます。